

②産科医療機関の視点

- 岡山県では従来より、周産期医療の各分野の成績は全国のトップグループにあった。これは2総合周産期母子医療センター、4地域周産期母子医療センターが分担し、十分機能していたためと考えられる。しかし、1地域周産期母子医療センターは医師不足により機能が低下し、また県西部の総合周産期母子医療センターには広島県東部からの紹介が多く、パニック状態にある。また、鳥取県からの搬送も増えてきた。
岡山県から他県に搬送することはほとんどないが、他県からの搬入が増加し、今後問題となると思う。
- 従来は母児ともほとんど受け入れ拒否することはなかったが、最近はどこも満床で受け入れられない状況が発生している。
- 従来より周産期救急情報システムはあるが、ほとんど機能していなかった(特に機能させる必要もなかった)が、今後は本システムを実態に見合ったシステムとして稼働させる必要がある。
- 現在のところ、岡山市、倉敷市、津山市は分娩施設が確保されているが、他地域ではごく少数の分娩施設が点在した状態であり、危機的状況にある。また、上記三市の基幹病院は、いずれも少数の産科医で厳しい状況の中運営されている。
- 岡山県内の基幹病院でも定年前のリタイヤが相次いでいる。

2)本事業の実施状況

(1)オープンシステム、セミオープンシステム病院概要

病院名	全病床数	産科病床数	MFICU病床数	NICU病床数	年間分娩数	産科医師数	助産師数
岡山大学病院	870	22	0	3	334	23	19

※平成19年12月末現在。

平成20年4月には周産母子センター開院に伴いNICUは6床になる。

(2)オープン病院化連絡協議会の運営状況

①連絡協議会の構成員

- 自治体関係者：岡山県(保健福祉部健康対策課)
- 関係医療機関・関係団体：岡山大学病院(産科医師・地域医療連携室・経営企画・産科病棟師長)、日本産婦人科医会岡山県支部、岡山市医師会、岡山労災病院産婦人科医長